

穂 学

平成 30 年度

広州日本人学校学校便り

[No. 4]

平成30年7月19日(木)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

夏休みを迎えるにあたって

校長 丸本 互

一学期があつという間に終わり、夏休みを迎えます。楽しい夏休みを迎えるにあたって、学校より「夏休みの過ごし方」を配布いたしますが、子どもさんと一緒によくお読みいただきたいと思います。長い夏休みは、普段できないことに思いきりチャレンジすることができる期間なので、心に残ることも多く充実した時期だと思います。(中学3年生にとっては、大きな目標である高校受験に向けて、より充実した夏休みになることを願っています。)学校でも有意義に過ごせるよう事前に子どもたちと話し合いますが、家庭においても良き相談相手になっていただければと思います。また、友達、クラスから離れ長い間家庭を中心に過ごします。子どもさんと接する上でぜひ次のようなことも考えていただければと思います。

★「学ぶ力、生きる力をつけるためのチャレンジを！」

子ども達に求められているのは、「自ら課題を見つけ、自ら解決する力、すなわち、学ぶ力、生きる力」です。そのためには、多くの人とのふれあいの中での豊かな体験と、じっくり取り組むゆとりが大切です。夏休みはチャンスです。前向きにチャレンジさせてほしいと思います。

★「個性を伸ばしましょう！」

「個性」と「エゴ」とは違います。子どもだから何をしても許されるというのはエゴの強い人間になってしまいます。個性(その人らしさ)は大切に尊重しなければなりません。他人に迷惑をかけることは許してはなりません。学校でも人との関わりについては、多くの機会を通じて話していますが、家庭に戻るこの夏休みの時期に、ご家族で話し合ってみてください。

★「叱る時間は短めに。褒めてあげましょう！」

子どもを叱るときは、梅雨型でなく叱った後からっとする夕立型にして、後のフォローを忘れずにしてほしいと思っています。長く叱り続けても、子ども達の心の中には叱られたという事実だけが残って、なぜ叱られたのかが抜け落ちてしまいます。「叱るときは短めに、褒めるときはたっぷり時間をかけて。」を心がけてください。子どもさんの良いところを見つけ、おおいに誉め、励ましてあげてください。誉められることは、その子にとって自分自身の良さに気づくことであり、やるきを起こさせる原動力になります。

★「自由に発言できる雰囲気作りを！」

自由な雰囲気は子どもにゆとりを与え、考える力を育てます。だからこそ家庭は、子ども達がしっかりと発言できる場であってほしいと思っています。たっぷりと、自由に話し合える時間を作ってください。

★「時間をかけてゆっくりと！」

「出来てあたりまえ」でなく「今はまだ出来なくてもいつかできるようになる。」と考えると子どもの努力する姿がよく見えてきます。そうすれば、子どもに温かくやさしく接することが出来ると思います。子ども達を時間をかけてじっくりと育てていくよう心がけましょう。

これらのことは子ども達一人ひとりをしっかりと理解した上で、学校・学級で当然取り組んでいなければいけないことだと思っております。各学級でも取り組んでいきますので、是非、各家庭でも夏休みの間に取り組んでいただければと思います。

今後も学校と家庭がしっかりスクラムを組み、子どもたちを温かく支援していきたいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

